

05 補足資料



05 補足資料

飛鳥時代關係年表

飛鳥時代関係年表

- 531 継体天皇逝去
- 538 上宮聖徳法王帝説、元興寺縁起などは、この年を仏教公伝とする
- 552 日本書紀は、この年を仏教公伝とする
蘇我稲目と物部尾輿の崇仏論争がおこる
- 554 五経博士らが百済より来日
- 571 欽明天皇逝去
- 572 敏達天皇即位
- 577 百済が日本に経論と僧、技術者を送る
- 579 新羅が日本に仏像などを送る
- 584 蘇我馬子が司馬達等の娘の善信尼らを出家させる
- 585 物部守屋が寺を焼き、仏像を難波堀江に捨てる
敏達天皇逝去 用明天皇即位
- 587 用明天皇が三宝に帰依することを群臣に諮る
用明天皇逝去
蘇我馬子と聖徳太子らが、物部守屋を滅ぼす
崇峻天皇即位
- 588 蘇我馬子が飛鳥寺の造営に着手
百済より僧、寺工、瓦博士などが来日
- 589 隋が中国を統一する
- 590 善信尼ら百済より帰国し、桜井寺(のちの豊浦寺)に住む

- 592 蘇我馬子が崇峻天皇を暗殺 推古天皇即位（豊浦宮）
- 593 聖徳太子が国政に参画、摂政となる
- 594 推古天皇が三宝(仏教)興隆の詔を発する
- 595 高句麗の僧・慧慈が来日
- 596 飛鳥寺が完成
- 600 隋に使者を派遣(第一回遣隋使)
- 602 百済の僧・観勒が暦法を伝える
- 603 推古天皇が小墾田宮へ遷る
冠位十二階を制定
- 604 憲法十七条の制定
- 606 鞍作止利が丈六仏像(飛鳥大仏)をつくり、飛鳥寺の金堂に安置
- 607 小野妹子を隋に派遣
国ごとに屯倉を設置する
- 608 隋使・裴世清が来日
南淵請安、僧旻、高向玄理らを隋へ派遣
- 610 高句麗の僧・曇徴が、紙・墨・彩色の製法を伝える
- 618 唐が建国される
- 620 「天皇記」「国記」が編纂される
- 622 聖徳太子逝去

- 623 法隆寺金堂釈迦三尊像(鞍作止利作)が完成
- 626 蘇我馬子没 蘇我蝦夷が大臣となる
- 628 推古天皇逝去
- 629 舒明天皇即位 (飛鳥岡本宮)
- 630 犬上御田鍬を唐に派遣(第一回遣唐使)
- 632 僧旻が新羅の使者とともに帰国する
- 636 舒明天皇が田中宮へ遷る
- 639 百濟大寺の建立を開始
- 640 南淵請安と高向玄理が唐から帰国する
- 641 舒明天皇逝去
- 642 皇極天皇即位 (小墾田宮、のち飛鳥板蓋宮へ)
- 643 蘇我入鹿が山背大兄王とその一族を滅ぼす
- 645 中大兄皇子が、中臣鎌足らとともに蘇我入鹿を暗殺(乙巳の変)
孝徳天皇即位 難波長柄豊碕宮に遷る
- 646 改新の詔
薄葬令が出され古い習俗の廃止を命じる
- 652 班田収授法が施行される
- 653 孝徳天皇を難波宮に残し、中大兄皇子らが飛鳥にもどる
道昭が入唐し、玄奘に師事

- 654 武烈王が唐から新羅王に冊封される
孝徳天皇逝去
- 655 齊明天皇(皇極重祚)即位 (飛鳥板蓋宮→川原宮→後飛鳥岡本宮)
- 658 阿倍比羅夫の軍が東北へ進出
有間皇子の謀反
- 661 齊明天皇が軍を率い九州へ
齊明天皇逝去 中大兄皇子が称制を行う
- 663 日本軍が白村江の戦いで唐・新羅連合軍に敗北
- 667 近江大津宮に遷都
- 668 天智天皇即位
- 669 中臣鎌足に大織冠を授け藤原姓を与える 鎌足没
- 670 庚午年籍が作成される
- 671 近江令が施行される
天智天皇逝去
- 672 壬申の乱がおこる
- 673 天武天皇が飛鳥浄御原宮で即位
- 675 豪族の私有地、私有民などの廃止
- 680 天武天皇が薬師寺建立を発願
- 681 国史の編纂がはじまる
- 684 八色の姓を制定する
- 685 新たな位階を定める

- 686 天武天皇逝去 皇后(のちの持統天皇)称制
- 689 飛鳥浄御原令の施行
- 690 持統天皇即位
庚寅年籍を作成する
- 694 藤原京に遷都
- 697 持統天皇譲位、文武天皇即位
- 698 薬師寺(本薬師寺)が完成
- 700 道昭が遺言により火葬される(記録上最初の火葬)
- 701 大宝律令の完成
- 702 遣唐使派遣
持統太上天皇逝去
- 707 文武天皇逝去、元明天皇即位
- 708 和同開珎の銀銭、銅銭の鑄造
藤原不比等が右大臣となる
- 710 平城京に遷都